

「熊本から本物のインクルーシブ教育を！」

開催趣意書

インクルーシブ教育とは、障害の有無、国籍、人種、性別などに関わらず、すべての子どもが分け隔てなく同じ場で共に学び合う教育のことです。多様性を尊重し、誰もが教育を受ける権利を保障し、互いの違いを理解し共生する社会の実現を目指します。

日本では1994年の「サラマンカ宣言」以降注目され、「特別な支援が必要な子どもも通常の学級で学べるよう、学校システムそのものの変革と柔軟な対応」が求められています。

2014年に日本が批准した「国連障害者権利条約」では、第24条において条文化され、2022年の障害者権利条約の総括所見では、日本において遅れているインクルーシブ教育の推進を強く求める勧告が出されています。残念ながら日本は、インクルーシブ教育の実現においては、後進国と言わざるを得ない状況です。

さて、熊本ではどうでしょうか。障害のある子どもが学びたい学校を選択できる仕組みになっているのでしょうか。「きょうだいと同じ学校に通いたいのに支援学校へ行くようにと求められた」とか、「障害による“適切”な支援は地域の学校や普通学級では得られない」など、自治体の教育委員会等から言われ、従わざるを得なかったという子どもや保護者からの声が後を絶ちません。

いったいいつになったら、障害者権利条約が強く求めるインクルーシブ教育が実現するのでしょうか。

本タウンミーティングでは、熊本県でのインクルーシブ教育を求めてきた保護者や学生さん、支援団体からの実践・体験報告の後、研究者の立場からのインクルーシブ教育実現の展望についての講演、そして全国各地の実践を知る当事者団体のリーダーからの報告によって、熊本の今とこれからの情報や取組みの共有を図っていきたいと思います。

障害の有無等に関わらずすべての子どもたちが、インクルーシブ教育を経て、共生社会のメンバーとして育ち、おとなになっていける道筋に光をあててまいりましょう。

2025年12月

熊本から本物のインクルーシブ教育を！

タウンミーティング実行委員会